

歩くことが好きな**健脚**コース



長命寺古道から 円山古刹観光推奨コース

近江八幡観光ボランティアガイド協会編

近江八幡は
ガイドの案内で
八万倍面白い

<お問合せ・ガイドお申込>
JR 近江八幡駅北口観光案内所
TEL:0748-33-6061
FAX:0748-32-4125
<https://www.omi8guide.com>

START

JR 近江八幡駅

▶「長命寺行き」のバスに乗車

約20分(バス)

(陶芸の里)バス停

▶ここからガイドが案内します

約1分(徒歩)

長命寺古道

天之御中主尊神社

▶国造りの「伊邪那岐命／伊邪那美命」
「大国主命」「天照大神」らが
おわしますスーパーシュライン

約5分(徒歩)

朝日の名号

▶目の不自由なおのぶお婆さんが7日間
一心不乱に南無阿弥陀仏と唱えると、目が
治り、その時刻の陽の当たるときに六字
名号が岩のうえに現れると

約10分(徒歩)

そこ、ここにある六地藏

▶行き倒れた参詣者を弔うお地藏様が

約10分(徒歩)

宮内庁に献上するむべの木

▶天智天皇が郁子(むべ)を食べている長寿の
村の人を見て、「宜(むべ)なるかな」と
現在も宮内庁に献上

約15分(徒歩)

大嶋神社 奥津島神社

▶両社とも式内社 大国主命と奥津嶋比売命
がご祭神 日牟礼八幡宮と本社そして沖島の
奥津島神社と一直線に並んで、航海の安全
を祈願

約15分(徒歩)

百々神社

▶神使は白蛇で、風邪・喉・喘息の神様
また、蛇除けにも

約10分(徒歩)

水郷のさと まるやま

▶(葭原を巡る「水郷めぐり」の出発点です)

約10分(徒歩)

海雲寺

▶鐘楼から見る織山／安土山／西の湖そして
葭原は、さすがの絶景

約10分(徒歩)

清見寺

▶本堂の屋根は地元産の葭葺き

約5分(徒歩)

寶珠寺(ほうしゅじ)

▶急な石段の途中のお堂に重文の毘沙門天
立像様が安置

約5分(徒歩)

圓山神社

▶本殿の裏に、大地震のとき崩落を防いだ
大きな磐座
ふもとの鳥居に独特な勧請縄が見られる

約10分(徒歩)

(円山)バス停

▶ここでガイドとお別れです

約15分(バス)

JR 近江八幡駅

GOAL

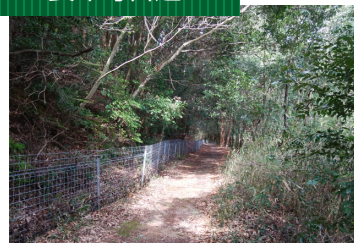
所要時間：約3時間

歩行距離：約6km

<ひと言>

白洲正子も「近江山河抄」の冒頭で
「近江の中でどこが一番美しいかと聞
かれたら、私は長命寺のあたりと答
えるであろう」
と述べている風景の中を歩きましょう

長命寺古道



郁子(むべ)



百々神社



圓山神社



長命寺古道

長命寺は奥島と呼ばれた島にあり、唯一渡会橋（わたらいばし）で八幡と繋がっていました。
この渡会橋と長命寺を結ぶのが長命寺古道だったのです。

天之御中主尊神社（あめのみなかぬしのみことじんじゃ）

ご祭神は、古事記、日本書紀の神話にある造化三神（天之御中主尊、高御産巢日神、神産巢日神）の内の一柱です。

創立年代は不明ですが、長命寺の鎮守として日吉の下八王子を勧請し虚空蔵大菩薩神社として祀られていたようです。

明治時代の国学者朝倉尚綱（あさくらしょうけい）が本地垂迹の誤りを正し、惟神（かながら）の大道を復興せんと、ご祭神を改めて、大正時代に建立した神社です。



朝日の名号

昔々この地に目の不自由な「おのぶ」という信心深いおばあさんが、亡き夫の夢のお告げに順って、南無阿弥陀仏と昼夜唱え続けること七日間、満願の日に大岩に弘法大師のお姿と南無阿弥陀仏の六字の名号が目に映り、不自由な目が治りました。

すると六字の名号は消えてしまいましたが、おのぶさんが見た時刻の陽の当たるときだけ名号は見えると伝わっています。



大嶋奥津嶋神社（おおしまおくつしまじんじゃ）

大嶋神社と奥津嶋神社の二つの神社を指しています。両神社とも式内社でご祭神は、大国主命と奥津嶋比売命です。藤原不比等が沖島に奥津嶋神社を祀った場所（今の弁才天を祀っている場所）とこの大嶋奥津嶋神社と日牟礼八幡宮（昔の神の社の場所）はほぼ一直線に並び、宗像大社の奥津宮、中津宮、辺津宮と同じく、この三か所で宗像三女神を祀ったのではないかと考えられ白洲正子も「近江山河抄」の中で述べています。境内には常緑のアケビ＝常磐（ときわ）アケビである「むべ」（郁子）が植えられています。

天智天皇が奥島に立ち寄られた時、長寿の老夫婦より、この村の珍しい果実を食べているので無病長寿であると聞き、天皇は「宜（むべ）なるかな。」と申されたので、この果実を「むべ」と呼ぶようになり、以降毎年禁裏へ献上されました。



清見寺

屋根は地元産のヨシで葺かれています。



海雲寺

浄土宗のお寺で、ご本尊は阿弥陀如来です。



圓山神社

御祭神は天孫降臨の天照大神の孫となる津彦火瓊瓊杵尊（あまつひこほのくにぎのみこと）です。

旧社号は十禅師を坂本山王七社より勧請て室町期に建立されたと伝わります。

社頭の御影大岩を御霊として崇尊したようです。



寶珠寺（ほうしゅじ）

天台宗の無住の寺です。2007年に本堂が修理されています。

収蔵庫には平安時代の国の重文・木造毘沙門天立像が安置されています。



渡合橋（わたらいばし）、百々神社（ももじんじゃ）

今では陸続きになっている奥島ですが、かつては津田内湖西の湖、大中の湖、琵琶湖に囲まれた、文字通りの島でした。

陸路で島を結ぶ唯一の入り口が渡合橋でした。

言い伝えによれば、この橋下に大蛇が住み、行き来の人々を悩ましていました。

狢（こま）の長者と敦実親王（あつざねしんのう）にこのことを告げると、二人は安土の佐々木神社で大蛇退治を祈願し、橋の上に来ると、大蛇が水中に潜んでおり、大きな目が輝いて、その影が水に映り、四つもあるように見えました。

敦実親王は弓矢をつがえ、射放した矢は見事命中して大蛇を退治したということです（詳しくは、「近江八幡のふるさと昔ばなし」―渡合橋の大蛇―をお読みください）。

島の対岸に鎮座しているのは百々神社で、ご祭神は道祖神の猿田彦、神使は蛇です。

風邪、のど、喘息の神様で、蛇除けにも効ありとされる神様です。

この神様は穢れを大層嫌い、この神社の前は死体を通してはならないとされていました。

